

文教福祉常任委員会  
所管事務調査報告書

学校、幼稚園、保育所等  
施設整備について

令和3年（2021年）3月

1. 調査事件名

学校、幼稚園、保育所等施設整備について

2. 調査の目的

実態を把握し、整備計画、学校施設長寿命化計画への提案を行う。

3. 調査の経過

委員会・協議会 開催日

令和元年 6月 3日 委員協議会（任意） 所管事務調査事項の決定

令和元年 7月 3日 委員会 関係部局への事務調査、委員間討議

令和元年 9月 18日 委員会 関係部局への事務調査、委員間討議

令和元年 12月 18日 委員会 委員間討議

令和2年 2月 18日 委員協議会（任意） 委員間討議

令和2年 9月 10日 委員会 委員間討議

令和2年 12月 15日 委員会 関係部局への事務調査

令和3年 1月 19日 委員協議会（任意） 委員間討議

令和3年 3月 10日 委員会 最終とりまとめ

4. 調査の結果

(1) 所管部署の施策実施状況調査

- ① 学校施設は小学校47棟、中学校12棟、幼稚園15棟で、そのうち40年を超える建物が全体の45%ある。京田辺市ではまだ児童・生徒数の増加ということが見込まれる中で「長寿命化計画」を立て、今後約40年間にわたる施設の営繕計画をつくる。

**耐震化達成状況（令和2年11月末）**

小学校 100%（47棟/47棟）

中学校 100%（12棟/12棟）

幼稚園 47%（7棟/15棟）

保育所 57%（4棟/7棟）

- ② 市立保育所施設は40年を超える3園3棟が耐震基準を満たしていない上、法定耐用年数を超過している。長寿命化改修や改築といった施設整備が必要。

- ③ 市としては、人口推移を今後も10年程度は増加し、その後減少傾向というような見込みをしている。そういう中で、施設の新設等を行うことなく、現施設を有効活用するというのが、今後の施設整備の観点になる。

### 校区ごとの人口推計（令和2年11月末）

【小学校区別子ども（0-14歳）の将来推計人口】

（単位：人）

小学校区	2018 平成30	2019 平成31/ 令和1	2020 令和2	2021 令和3	2022 令和4	2023 令和5	2024 令和6	2025 令和7	2026 令和8	2027 令和9
大住小学校区	763	758	745	740	715	691	677	668	649	632
田辺小学校区	1,812	1,824	1,841	1,836	1,846	1,855	1,873	1,896	1,900	1,913
草内小学校区	910	905	895	885	889	891	883	874	880	867
三山木小学校区	2,244	2,412	2,570	2,720	2,840	2,953	2,987	3,011	2,980	2,967
普賢寺小学校区	109	109	111	112	114	116	121	121	121	124
田辺東小学校区	536	521	507	502	490	490	485	494	496	497
松井ヶ丘小学校区	1,779	1,755	1,730	1,716	1,688	1,661	1,615	1,579	1,545	1,522
新小学校区	1,485	1,479	1,475	1,451	1,430	1,412	1,404	1,397	1,393	1,371
桃園小学校区	1,258	1,206	1,173	1,118	1,072	1,002	955	915	898	869
合計	10,895	10,967	11,045	11,080	11,084	11,071	11,000	10,954	10,863	10,762

小学校区	2028 令和10	2029 令和11	2030 令和12	2031 令和13	2032 令和14	2033 令和15
大住小学校区	628	624	607	593	588	587
田辺小学校区	1,925	1,943	1,943	1,966	1,971	1,978
草内小学校区	869	879	880	889	892	892
三山木小学校区	2,937	2,904	2,857	2,806	2,708	2,660
普賢寺小学校区	126	122	123	111	103	99
田辺東小学校区	500	503	511	519	519	531
松井ヶ丘小学校区	1,508	1,509	1,502	1,516	1,526	1,535
新小学校区	1,345	1,324	1,306	1,289	1,275	1,275
桃園小学校区	865	859	863	865	898	933
合計	10,703	10,667	10,592	10,574	10,480	10,490

- ④ 小学校区人口の変動に併せて、市全体の小学校、中学校の通学区域をどのように編成していくのか、また市が小学校用地として所持している土地の活用などの課題を新しく検討していかなければならないと認識している。
- ⑤ 各学校からの要望がある危険な箇所については改修しているが、市内学校全体の安全対策についての議論は十分行われていない。
- ⑥ 小学校の体育館は、通常の使用で言えば稼働率はかなり低い。そういう意味で、学校運営上、体育館に今すぐ冷房が必要かという点については考えていない。暑いときには体育の授業を変更したり、1学期の終業式は冷房の効く各部屋でするとか熱中症対策等については配慮している。暑さの中での活動に関しては、環境省が示している35度を超えてしまうと運動は中止すると周知している。ただ、避難所としてどのようにしていくかということは市としての課題。
- ⑦ トイレ洋式化は職員用も含め、大改修時だけでなく毎年の予算で、前倒しも含め、検討していく。

## トイレの様式化状況 (令和2年11月末)

㊟ 小学校 (和式大便器・洋式便器)

施設名	トイレ種別	設置数	和・洋合計	洋式化率 (洋式/ (和+洋式))
大住小学校	和式	53	69	29.2%
	洋式	16		
田辺小学校	和式	25	52	51.9%
	洋式	27		
草内小学校	和式	39	55	29.1%
	洋式	16		
三山木小学校	和式	18	82	79.0%
	洋式	64		
普賢寺小学校	和式	16	26	38.5%
	洋式	10		
田辺東小学校	和式	26	61	57.4%
	洋式	35		
松井ヶ丘小学校	和式	42	92	54.3%
	洋式	50		
紫小学校	和式	48	81	40.7%
	洋式	33		
鶴園小学校	和式	48	70	31.4%
	洋式	22		

㊟ 中学校 (和式大便器・洋式便器)

施設名	トイレ種別	設置数	和・洋合計	洋式化率 (洋式/ (和+洋式))
田辺中学校	和式	47	114	58.8%
	洋式	67		
大住中学校	和式	71	96	26.0%
	洋式	25		
培良中学校	和式	47	71	33.8%
	洋式	24		

㊟ 幼稚園 (和式大便器・洋式便器)

施設名	トイレ種別	設置数	和・洋合計	洋式化率 (洋式/ (和+洋式))
田辺幼稚園	和式	7	15	53.3%
	洋式	8		
田辺東幼稚園	和式	3	16	81.3%
	洋式	13		
草内幼稚園	和式	7	14	50.0%
	洋式	7		
大住幼稚園	和式	2	20	90.0%
	洋式	18		
三山木幼稚園	和式	4	16	75.0%
	洋式	12		
松井ヶ丘幼稚園	和式	6	15	60.0%
	洋式	9		
紫幼稚園	和式	1	20	95.0%
	洋式	19		
普賢寺幼稚園	和式	0	10	100.0%
	洋式	10		

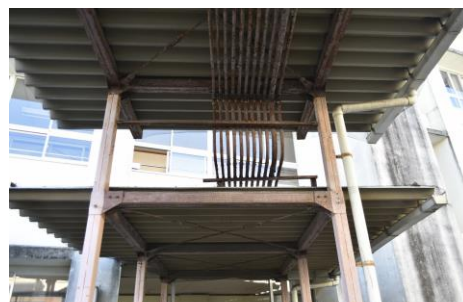
- ⑧ 幼稚園、保育所等施設整備については、平成29年9月にだした「こどもが輝く京田辺の実現に向けた基本方針」に基づいて行っていく。特に幼稚園、保育所は施設の耐震達成の進捗が低いことから、長寿命化施策とあわせながら計画に沿って進める。入園入所数は、数年間は右肩上がりで進むと考えている。無償化の影響は計画策定後であり、実績を見ながら対応していく。
- ⑨ アフターコロナを見据えた今後の施設整備、活用の方針は、文部科学省「小学校（中学校・幼稚園）設置基準」や「学校施設整備指針」「長寿命化計画策定の手引き」等に基づき、施設整備を行う。

## (2) 現地視察調査

令和2年2月4日に、京田辺市立草内小学校・大住小学校へ現地調査を行い、耐震化の状況や施設整備の実態を視察した。非構造部材の崩落防止をはじめ書庫等の転倒防止対策、窓ガラスの安全対策、トイレや水場の整備等、学校ごとの取組み状況や対策の達成の違いがわかり、特に安全対策や整備する上での市全体としての基準が決められていないことが明らかになった。



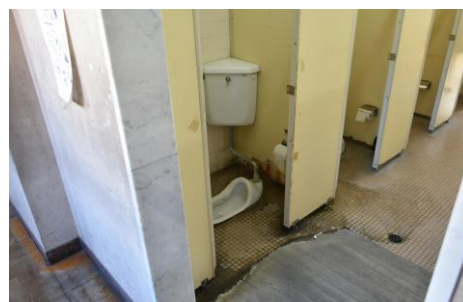
耐震済校舎



(草内小学校) 不用配管の残る老朽化した渡り廊下



耐震済校舎



(大住小学校)

破損した和式トイレ

### (3) 委員間討議

- 学校や幼稚園、保育所の安全対策についての意見として、幼稚園、保育所の耐震化の問題は急ぐべき課題であると同時に、ガラス張りの園舎など安全性に対応した構造になっていないのではないかと。
- 非構造部材の崩落防止をはじめ書庫等の転倒防止対策、窓ガラスの安全対策、トイレや水場の整備等、安全対策や整備する上での市全体としての基準が必要。
- 校内の死角対策として防犯カメラの設置が必要ではないかと。
- 人口推移を見据えた計画として、これからも児童・生徒数が増加する田辺中学校区の校区再編が必要なのではないかと。
- 市が小学校用地として所有している山手南地内の土地活用を検討すべきではないかと。
- 学校によっては、カーテンで仕切られている洋式トイレもあり、改修は計画を前倒してでも早急に行うべき。
- 学校体育館は避難所となるのだから、空調設備は必要ではないかと。空調設備をしないのであれば、床暖房などどうしていくのか研究検討すべき。
- アフターコロナを見据えた今後の施設整備で、換気対策をすべき。
- 幼稚園、保育所等施設整備については、無償化の影響がでてくるのではないかと。見直しも含めて考えるべき。

### (4) 総括

学校、幼稚園、保育所等施設整備については、「学校施設長寿命化計画」や「こどもが輝く京田辺の実現に向けた基本方針」に基づいて計画的に進められようとしている。しかし、新型コロナウイルス感染症が将来的に不透明な中で計画見直しも含め、アフターコロナを見据えた今後の施設整備で、再度検討が必要とされる部分については躊躇なく行われることを求める。

特に子どもの成長発達に必要不可欠の施設であるだけに、安全性や環境に配慮した取り組みの推進を提案する。

- 非構造部材の崩落防止をはじめ書庫等の転倒防止対策、窓ガラスの安全対策、トイレや水場の整備等、安全対策や整備の上での市全体

としての基準の作成。

- 人口推移を見据え、校区再編や小学校用地の土地利活用を検討すべき。
- トイレ改修は計画を前倒してでも早急に行うべき。
- 学校体育館は避難所ともなるのだから、空調設備など研究検討すべき。
- アフターコロナを見据えた今後の施設整備を。
- 幼稚園、保育所等施設整備については、無償化の影響を見据えて、推進すべき。